

西木戸大先輩 寺山大先輩

101歳、91歳 青春を語る

時代を超えて心ひとつに...

八女中・高同窓会新聞

第12号

発行日/平成26年5月25日
 発行/八女中・八女高同窓会
 TEL(0942)53-4184 FAX 52-0341
 編集/八女中・八女高同窓会事務局
 〒833-0041
 福岡県筑後市大字和泉 251
 福岡県立八女高等学校内

八女中学校のことども



西木戸 衛 (中18回)

私は大正元年十一月十二日、八女郡川崎村山内（現在は八女市山内）に生まれ、大正八年四月川崎小学校に入学しました。小学校は和服で晴天は草履、雨天は下駄、袴は祝祭日の学校行事の時だけ穿いていました。

当時の日本は大不況時代で子弟は小学校を卒業すると住みこみで仕事を覚えたり、奉公に行ったりする状況で、川崎小学校は一年生八十名前後だったのですが、中学校へ行くのは二、三名でした。

しかし私は担任の先生の強い勧めと、母の「学問すると偉くなるよ」という後押しで八女中学校を受験することになりました。

入試は大変難しく三分の一は不合格

でしたが、クラスから二名合格しました。大正十五年（一九二六年）四月一日福岡県八女中学校（現在の八女高校）に入学しました。

初めて洋服を着て、中学校の制服、制帽、革靴で通学するものは実に嬉しいものでした。

家から学校まで約十キロあります。

当時黒木から羽犬塚まで南筑軌道という狭軌の汽車が走っていました。生徒は自転車で行ったり、汽車に乗って行ったりしました。私は運動と経費節約の為、福島まで歩き、福島から軌道に乗りました。朝六時半家を出て福島まで一時間歩き、この一時間でその日の授業の予習をします。帰りの一時間でその日の復習をしました。この徒歩の予習と復習が習慣となり、その後の学業成績に大変な好結果をもたらしたと思っています。

上級生には敬礼しました。しない者は制裁するとの事、校門の近くになると上級生が続々と登校されるので、次から次に拳手の礼をするのが大変でした。しかし私の在学中に制裁はありませんでした。下級生は上級生の言うことをよく聞きました。

校則には「高等女学校を覗いてはいけない」等があり、青春のかけがえがかり浮かびます。違反したものは職員室に立たされました。

五年生になった六月、担任の先生が上海の「東亜同文書院入試」の書類を持ってこられました。私はあまり親に負担をかけたくないと考えていたので、この難関の県費留學生に挑戦する事にし、七月県庁学事課に行き受験しました。科目は英・数・国漢。英文和訳は易しかったのですが和文英訳が難かしかつ

たのを憶えています。しかし幸いにも合格し新聞に名前が載りました。学校では朝礼の時、教頭先生が話されたり全生徒が万歳三唱をしてくれたりして、身に余る光栄でした。しかし、これも先生方の熱心な御指導と御激励、級友の切磋琢磨があったからこそと、今に至るまで感謝しています。

私は現在満百歳になります。様々な体験をし、良い人生を送ってきました。中でも中学入学式の日——運動場の周囲、校門に桜花爛漫と咲き、前途洋々の喜びと希望で一杯だった日のことは今でも最良の思い出であります。

母校の更なる発展と後輩諸君の活躍と健闘を祈念してやまない次第です。

我が誇り高き同窓生



寺山 文融 (中28回)

同窓会本部からの要請によりペンを取ります。私は八女中学第二十八回生（昭和十五年三月卒）の校友です。江田島海軍兵学校に入学の為に昭和十四年十二月一日進学の為中退です。往時は日支事変の事もあり国を挙げて軍国調で、先生に会うと「寺山！お前は体格がいい、陸士か海兵に必ず受験しろ」と声掛けられ

たものです。私は西教寺という本派本願寺の生まれで、軍人なんぞ縁の遠い生まれでしたが、その時代は一にも二にも軍国調ばやりで、軍隊とは縁遠い生まれでも陸海軍志願が盛りとなっていました。僧侶という軍隊とは縁遠いのですが、その頃の世相空気が、家族に一人も軍籍の者が居ないのは非国民!?とされた時代でしたので、せめて家族の中一人位はという気があり、私は次男でもあり身内からも軍隊に志願してはと言う声が聞こえました。折しも世表は予科練(航空隊・海軍)や陸士予科の破格の増募等が次々発表され、時代の若者達を誘うこと急で、所謂軍国調時代でした。その時代世相の中で私共は育ちました。一方逆にこちらとしては「逃げている卑怯者ではない。僧侶家族だと言って平和ぶるのではない。そんなら見事受けて軍人としてお国の為に働こうではないか!」と反発する気もあって陸・海双方に受験し、海軍に合格し、次いで陸士にも合格したが、その当時海軍の方がずっと難関で合格が難しかったので、海軍に入校しました。海兵という兵は兵隊さんの兵ではなく、機関学校、経理学校(主計兵経理兵科)の種別で士官を兵科、機関科、経理主計科、に種別し、(航海運用等一般運搬作業)の兵科(飛行隊関係も)兵学校機関学校の主計学校の三士官学校に分科したものです。だから海兵とは海軍の航海運用両面を初め、機関関係・燃料関係等の作業やそれらに関連の事業等は機関学校(舞鶴市)で、主計・経理は経理学校(横須賀市)でした。尚飛行隊将校は霞ヶ浦に、兵学校卒業後入学するのです。私は兵学校を出て、この飛行学生を卒えたわけです。

当時はその海兵に入校したのは五名で、

浪人から一名、四年生から一名と合せての合格率は当時の軍国調時代の我が国でも稀で、福岡県下では我が八女中学(現在八女高)が第一番で、次は小倉中で四名、三番が修猷館で三名と、断然八女中は県下一の秀才校と言われました。時の校長は鼻高々だったとの噂でしたが、兵学校の中でも八女中は運動が強く、訓練では特に剣道は川島君が主将となり、三年生の時ですか、同じ八女中同級の下木君が最後の試合で対決し、実に八女中出身同志が天下の江田島海軍兵学校道場で戦ったのです。その木下君は八女中時代に完成したばかりのスイミングプールで競泳し、兵学校の猛訓練の競技では二つも三つも優勝メダルを獲得した水泳の猛者でもありましたが、航空決戦の空戦に散華しました。私は水泳訓練中に体をこわし(気管支炎)で、休学(学校全体としては繰上げ卒業中で二期分延期)した為か戦死を免れて申し訳なかったが、軍国主義の常とは言え、良き友を海戦空戦に失い残念。だが往時の校長(八代目)神吉先生の息子で、私より二年後に海兵に入ってきた神吉弥彦君は戦後航空自衛隊に入り「空将」までに昇進したが、みんなが愛好する零戦の空戦の猛者の生き残りで、現在なおお元気で「元帥」格である。(現在香椎駅東在住)彼は今も福岡市近郊に在住し、心安げにつき合ってくれる。彼こそ佳き同窓の先輩として我が同窓会の為に活躍貢献してくれるであろう。同窓会頑張れ!!



応援よろしくお願いします! はね犬バンジー



ハ女高校でみつけたもの

はね犬バンジー 橋本 祥平(高65回)

まず初めに、ハ女高校在学中に私を指導して下さった先生方、私の日々の成長を見守っていただいた地域の方々、関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。さて私の在学中の思い出は、卒業生全てが実感していると思いますが、やはり凄まじい程の勉強時間が一番印象に残っています。私は正直三年生の後半から現在の漫才師という道に進むために勉強はおろそかにしていました。そんな私でも在学中の一番の思い出は、勉強をしたことです。なのでハ女高校を卒業されたことを方は私は尊敬しています。今の在校生に言いたいことは、勉強で大事な高校三年間を無駄にしていると思うのではなく自分たちはここまでやったという将来の自信にしたいです。

私の場合は、勉強して勉強して漫才師の道を選びました。傍らから見たら愚かな行為と見られたかも知れませんが、ただ一番大切なことは自分が何をしたいかという事です。私は何の目標もなく大学に通うだけだったからかなりしんどかったと思います。進学校ではあり得ない漫才師という目標を決めてからは、必死で頑張

れるようになりました。今までみたいに、しんどきなんてものはありません。あるのは充実だけです。在校生のみなさんはずつと自分が何をしたいか、進路を決める」と指導されていると思いますが、それは目標を決めることで無意味と思われる時間を有意義な時間に変えるための一番簡単な方法なのです。卒業する時にハ女高校で学んで良かったと思えるような生徒になつていることを祈ります。

今!!

はね犬バンジー 中尾 勇希(高65回)

初めましての方もお久しぶりの方もおられると思いますが、はね犬バンジーの中尾です。私はハ女高生の時は正直、勉強も部活も中途半端にやっていました。もしかしら周りからは何を希望に学校生活を送っているのだらうと見えていたかもしれない。そんな私でも唯一負けたくないものがありません。それはお笑いでした。私は周りの人からの注目だけは自分でも一番だと思っていました。しかし今こうしてお笑いという逆境まみれの世界に入ってみれば、私の自信なんてちっぽけなものでした。時に悔しくて涙したりして落ち込むこともありましたが、それでも私を救ってくれていたのはハ女高の友人でした。何かあった時に電話をかけたら毎回話を聞いてくれました。ハ女高の絆というのは、アリストター・オフレイム※1の腕より太いと思いました。

そして今ハ女高に在学している生徒のみなさんに伝えたいことは、友人こそが本当の宝だと思えます。グランドライン※2なんかに行かなくてもワンピースはそこにあります。一日一日を大切にしてください。ここまで少し小ネタをはさんで書いたことは反省していますが「今」だからできることだと思っています。私は「今」を精一杯やっていきます。ちなみに大阪にいらつした時は、舞台に足をお運びください。(笑)もうよか!

※1 オランダの格闘家(吉本興業所属)
※2 漫画「ワンピース」に登場する偉大なる航路・到達点

伝統ある同窓会として

同窓会会長 下川 泰(高2回)



皆様、いかがお過ごしでしょうか。桜の花も過ぎ、初夏を迎える候になりました。

去る、三月一日は、八女高六十六回生二七四名が卒業され、同窓生は、総数二七、七二三名の多きに達しました。これは、百余年の長き歴史と伝統に育まれた賜物と思います。

同窓の大坪秀美校長が定年退職され、四月からは過去に教頭でおられた内田武文先生が校長として着任されました。先生は、人望・識見・熱意に秀でた方で大いに期待が持たれます。

ご承知のように、当地区は、中心部を除き少子高齢化のため、過疎化が進み、児童数の減少は深刻で、小中学の統廃合が行われており、高校である母校も少子化の影響が、ここ数年、一学年八クラスから七クラスとなり、本年

着任の御挨拶

八女高校校長 内田 武文



同窓会会員の皆様方におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろから、本校教育振興のために、格別の御理解と御協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。私は、平成二十一年度から二十三年度までの三年間、南里校長・大坪校長のもと教頭として本校に在職しておりました。その間、同窓会役員の方々ははじめ、会員の皆さま方には、一方ならぬ御支援をいただきました。この場を借りて、篤くお礼を申し上げます。その後、二年間、県教育庁教育振興部高校教育課にお世話になり、今回の人事異動で、再び本校に、第三十二代校長として着任いたしました。伝統ある八女高校の校長という重責に身の引き締まる思いであります。

さて、過日、第一期始業式を行い、下川泰同窓会会長はじめ、役員の方々の御臨席のもと、第六十九回入学式を挙行し、新入生を迎えることができました。その中で、生徒達の、いきいきとした若者らしい表情を伺うことができ、つい三年前を思いだしたところです。あ

支部だより

関東支部

六月第一土曜日は盛大に!!

関東支部は本校大同窓会の後、例年六月第一土曜日に集まります!

近年増える参加者のため従来の学士会館の会場は手狭になりましたので、今年は港区芝公園内の東京プリンスホテルに移動します。左隣に増上寺、後ろに東京タワー・ホテルに囲まれたホテル内「ガーデンアイランド」での仲間の再会は、卒業から三十年目の節目にあたり企画運営し、皆を楽しませてくれます。本年は六月七日が第一土曜日、十時半受付、十一時〜十四時半、会費男女一律七千円。今年は支部結成八十五回目の節目です。で、より広い会場に移し本部と同調した「不亦楽乎」テーマに遠くの会員も奮って参加お待ちします。「集まるーバイ、楽しかーバイ」。

昨年は六月一日開催、予想を上まわった七十一名が駆けつけられました。人気会場「学士会館」の大ホール定員が二五〇名なので手狭になるほどの混雑ぶり、前半は着席での年次総会とANA塚本機長(高33回)講演「次世代機B787が日本の航空業界にもたらした影響」は大喝采、最後に来賓の下川同窓会会長と大坪学校長から現況報告を賜りました。後半の立食パーティ形式懇談会では同期の輪だけでなく先輩後輩が話し合える縦の交流を意識して試みました。

そして会員からの酒の差し入れで盛り上げ、スライドによる八女高の歴史を観て、



ジャズ演奏に酔いながらの大満足。帰り際には全員に絆・友情をテーマにした絵手紙と懐かしい「蹴洞」のお土産付きが配られ全員でフレイフレーと校歌斉唱。そして「九州北部豪雨災害被災者支援」に多くの支援募金もあつまり、八女市に寄付しました。当番幹事三十六回生の心打たれる温かい企画と運営に支えられてテーマ「原点回帰」は大成功。来年の総会での再会を約束し、三々五々同期会に移動解散しました。その他のイベントとして

①母校の東京研修に対する支援
去年は八月六〜八日二年生三十四名、高67回が上京。東大(江崎先輩:高33回)日本IBM(国武先輩:高12回)JAL(真邊先輩:高19回)が迎え入れ、宿舎でのOBとの懇談会は運営役員五人と現役大学生七人が参加し後輩の進路相談にあたり母校の支援をしました。

②ゴルフコンペ交流
「東ゆうかり会」は年春秋二回継続実施中。第二十二回は昨年十月十八日習志野Cで十五人参加。二十三日は今年五月十六日取手桜ヶ丘GCが予定されています。同窓生どなたでも参加自由で幹事の眞邊先輩(高19回)へどうぞ。

③広報活動はインターネットによって随時会員の活躍情報(講演会、演奏会等)ふるさと情報(TV番組、映画等)等を配信し、会員相互の情報が見えやすくなり好評を得ています。検索は平成二十六年八女中高同窓会関東支部連絡ページもしくは八女高校HPの中、同窓会にリンク公開していますのでどうぞ入って行つて閲覧下さい。

関西支部

はね犬パンジーのご紹介

関西支部長 角 武徳(高11回)

昨年の総会は、直前に木本支部長の病欠という非常時の中で、先輩諸氏梅野氏(高10回)並びに幹事役の大崎氏を始めとする高十七回卒の方々のご尽力により、無事開催されました。例年通り、下川会長、大坪校長の両氏もご出席賜り、会員五十八名の出席で、高橋氏(高18回)の音頭で、八女中学校、八女高等学校の校歌の斉唱で無事終了しました。校筆すべきは、フレッシュな会員の出席でした。

た。ここに紹介します。

高六十五回卒の中尾勇希氏と橋本祥平氏で、両氏は中学時代よりコンビを組み（コンビ名、バンジージャンプ）高校一年生の時にハイスクールマンザイに挑戦され、予選敗退されましたが、二年生、三年生と二年連続で、全国準優勝という実力の持ち主で、卒業後、吉本芸能養成所（NSC）に入学され、勉強強、特訓中とのことでした。

ツッコミ：中尾勇希氏。ボケ：橋本祥平氏。昨年十月にコンビ名：はね犬バンジーに改名。

NSC卒業後、劇場で、テレビの画面で大活躍されますよう出席者全員で、大声援で応援いたしました。

全国の八女中学校、八女高等学校の同窓会会員の皆様方も、はね犬バンジーの芸名をお忘れなく、応援してやって下さい。

大牟田支部

大牟田の未来は！

八女中・高校同窓会十支部あるなかで、会員数が一番少ない支部が、私達の大牟田支部と思われる。

私達の街大牟田は、十万人以上の町で最も人口減少率の高い町と言われている。昭和三十年の中ごろは二十万人、平成二十六年現在十二万人。石炭を基盤とした化学工業地帯が石炭産業の衰退と共に町も衰退して行った。大きく減少した人口を、企業誘致・学校誘致などの施策を尽くしているようだが、思うようには実績が伴わない。

当支部の会員数も町の現実と同じく、毎年減少していく。

五十九歳以下 七名(男二・女五)
六十九歳以下 九名(男四・女五)
七十九歳以下 三十四名(男九・女二五)



八十歳以上 二十九名(男二七・女四)
合計 七十九名(男四二・女三七)

七十歳以上を高齢者と言うならば、我々大牟田支部の高齢者率は七十九・七%と高い値を示している。大牟田支部の総会は、毎年四月の第三金曜日の、午後六時三十分から、高校校長先生・同窓会会長、その年度の同窓会総会実行委員、その他来賓の方々の出席を仰ぎ開催している。支部の会員の数より来賓の方々のほうが多いような支部総会ですが、お酒を酌み交わし和やかな一時を過ごすのが大牟田支部の特徴である。

悩みの種は如何にしたら、多くの会員が総会に出席してくれるようになるかである。

立花支部

ふるさとで語り合う

立花支部では、平成二十五年支部総会を、恒例になっております三月の第一日曜日(二十五年度は三月二日)に「ウエディングホール矢部川城」において開催いたしました。

まず、下川同窓会長、大坪校長先生、渡辺事務長をご来賓に迎え総会行事を行い、次に記念行事として、下川同窓会長に「我がふるさと」と題してまして、ご講演をいただきました。立花出身の下川同窓会長に改めて郷土愛を諭された思いでした。

その後、本年同窓会総会担当役員さんを囲んで、懇親会を行い会員相互の親睦を深めました。

当支部では、総会参加者が固定化傾向にありますので、今回から現理事が直接、卒業生と面談し、チケット購入などの協力を得て、新規会員(若年層)の出席について勧誘を進める取り組みを始めました。



今後、一人でも多くの会員さんが総会に参加いただき、同窓会の充実を図ってまいりたいと考えております。

広川支部

第五十二回広陽会(八女中・八女高広川支部同窓会)総会開催。

広川支部では支部総会を毎年二月十一日(建国記念の日)に開催しています。

下川泰同窓会長、大坪秀美校長および山下元生本部幹事長にご臨席・ご挨拶をいただき、総会行事で始まり、講演会、そして懇親会へと進みました。先ず物故会員の弔い、黙とうを行い、行事および会計報告が事務局より行われた後、恒例の講演会を行いました。今年は広川町役場住民課にお勤めの保健師野方由紀子様の話を聞くことができました。成人病の予防や健康増進に関する講話の中で私たちの日常生活で注意すべきこと、特に食生活についての正しい知識を与えていただきました。年配の参加者が多い中で多くの質問で盛り上がり、懇親会では同窓会総会の当番役員さんによる総会のチケット頒布があり、来賓の方々、支部



会員および同窓会の当番役員さんを囲んで世代を超えた交流が行われました。役員さんと会員の皆様の積極的な協力によって、今年の出席者数は昨年より六名増加して、過去最高となりました。特に若い会員さんが増えたのが会の活性化のために喜ばしいことです。今後も広川支部の活性化をさらに推し進めて会員の輪を広げ同窓会の充実を図りたいものです。

大木支部

支部長就任の御挨拶

大木支部長 眞邊 泰則(高16回)

旧三潞支部が久しく途絶えていましたが、平成二十三年北島壽・川村範光両先輩の多大なるご尽力を賜わり大木支部が設立され

ました。平成二十五年総会で北島壽前支部長がご勇退されましたので後任として就任いたしました。先輩方の偉業に深く感謝申し上げますとともに、今後ともご指導・鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

さて、当支部は会員数約三八〇名、その中で九割が七十歳以下という若い年齢層で構成されています。平成二十五年十一月二日(土)の総会には、下川泰同窓会長、渡辺博史参事兼事務長、第三十七回生の当番世話役のご臨席を賜わり、三十余名の参加があり、現在の八女高校及び同窓会の現状報告等があり、懇親会では懐かし旧交を温めることができました。特に、今年度は「支部会員名簿」の発行を第一の目標に掲げ、次回総会には会員一人が一人以上を誘って参加者の増員に努めることを申し合わせ、会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与する所存であります。当支部も若い年齢層が地域の各界で活躍されており、心強く思います。平成二十六年支部総会は、規約により十一月一日(土)に開催を予定しておりますので、一人でも多くお誘い合わせの上、出席していただきますようお願い申し上げます。



みやま支部

待望!!若き同窓会員

みやま支部長 大田黒 誠之(高25回)

支部活動としては、二月二十三日(日)に、茶寮「はなぞの」にて、支部総会を開催いたしました。二十五年「事業報告」及び「決算報告」を行い、承認いただきました。

二十六年度の目標として、若い同窓生をいかに多く参加協力させることができるようになるかを検討しながら、八女中、高の誇りを市内にアピールしていきたいと考え

ております。同窓会新聞を読まれた方は、どうか次期支部総会に、誘い合わせの上出席いただけるようにお待ちしております。

二十六年度、支部総会は、平成二十七年二月二十一日(日)予定です。



八女支部

講演を通して

八女支部長 大塚 泰三(高16回)

支部総会は、恒例になっている十一月第二日曜日(二十五日は十日)に十五時より、メモリアルホール「いわ井」において七十数名の御参加のもと、下川会長・大坪校長先生はじめ、来賓をお迎えし開催致しました。講演後、総会・懇親会の流れで催し、今回の講師は、高十七回で、久留米工業大学工学部、同大学院教授の井上利明氏にお願い致しました。演題は、「低炭素社会を生きる」(エネルギーと地球環境)でした。原発事故以来日本のエネルギー問題が大変話題を集めておりますが、ともすればヒステリックになったり、不安になったりする時勢のあり、井上先生は、人間にとつてのエネルギーという生命の根源からの視点でお話しをいただき、人間が生きてゆく為にはエネルギーが必要であり、生活水準を上げれば尚必要となる。その中でエネルギーになるものすべてを示され、そ



れに対するコストの問題、環境の問題を詳しくお話いただきました。個人が、社会がどのような選択をすべきか、考える機会をあたえていただきました。時節にあったお話で大変感銘をうけました。

八女支部は、チケットをお買い上げいただいた方は、どなたでも御参加出来るシステムになっております。お時間のとれる方は、是非お出かけ下さい。そして、八女中・八女高の絆と親睦の輪をひろげようではございませんか。

平成二十六年は、十一月九日(日)メモリアルホール「いわ井」を予定致しております。

筑後支部

出席者百五十人超の盛況!!

筑後支部長 久保 大(高16回)

筑後支部では、平成二十五年支部総会を恒例になっております十月末の土曜日(二十六日)に三十一回生の皆さんのお世話で八女高校同窓会館において開催いたしました。総会では、毎回出席者も増加し、今回は総勢百五十人を超え、下川泰同窓会長・大坪秀美校長をはじめ多くの来賓の方々にご臨席を賜り、盛大に開催することができました。

本年度は役員の改選時期でありましたが、総会におきまして役員の皆さんの留任を認めていただきました。また、平成二十四年度当番でありました三十三回生から支部総会余剰金を八女高校の教育活動にと福島良一氏より大坪校長に寄贈されました。大坪校長からは「生徒たちのために有効に活用させていただきます」とのお礼の言葉をいただきました。

会場を同窓会館一階の食堂に移し、八女中・八女高の校



歌を斉唱し懇親会が始まりました。和やかな雰囲気の中で、昔の友との久々の再会で話が尽きなく、閉会の機会がなかなか作れないほどの盛況でした。平成二十六年支部総会・懇親会は、三十三回生の皆さんのお世話で十月二十五日土曜日に八女高校同窓会館で開催を予定しております。一人でも多くの方々に出席していただきますよう皆様お誘いの上、ご出席をお願いいたします。

福岡支部

新旧交わりの場とならん

福岡支部長 加藤 久(高25回)

昨年十月十一日(金)、恒例となっております西日本新聞会館の「福岡国際ホール」にて、下川泰同窓会会長・大坪校長、中村筑後市長・山下幹事長をはじめ多くの来賓の方々にご参加いただき、約百名の参加者で盛大に開催されました。

当総会にて、私、不肖加藤久が、初代の重松氏・二代目の古賀氏を引き継ぎ、三代目の福岡支部長を拝命いたしました。不束者であります。どうぞよろしくお願いいたします。

中村市長には、福岡ソフトバンクホークスファームの誘致状況について熱のこもったご報告をいただき、大いに盛り上がりました。その後、筑後市への誘致が正式に決定したことはみなさんご承知の通りです。これを期に、筑後市だけではなく県南地域全体が発展することを大いに期待しております。

また、八女市の新社会推進部長の伊東様等からは、福岡市の渡辺通りにオープンした八女女の産品を取り扱うアンテナショップ「八女本舗」についてのご案内を戴きました。福岡支部は会員数が約二千名程度と想定されますが、住所等が明確な方は千名程度であります。前会長の時代に、幹事として福岡県庁や福岡市・銀行などの組織毎にそれぞれお世話をしていただく方を決めていただきましたので、この方々を中心として今後活動の輪を広げて参りたいと思っております。

現在の支部総会は、残念ながらほとんどが高齢者の集まりとなっており、名簿の整備とともに、若い人たちが集まってくれるように

工夫してまいりたいと思っております。私自身、社会人になりたての頃や、新事業を始めたときに、同窓生それも大先輩の存在が大きな心の支えになったことを経験しております。

福岡支部が、八女中学・八女高校をご縁に新旧様々な方との出会いのチャンスを与える場になればと念願しつつ、今後の支部運営をして参りたいと思っております。なお、本年度の支部総会は十月十日、博多駅近くの「八仙閣本店」にて開催予定ですので、多くの方のご参加をお願い致します。

久留米支部

久留米支部長を引き受けて

久留米支部長 近藤 信夫(高12回)

久留米市は人口三十万人を有する中核都市です。自然豊かな町で久留米といえは「つじ」を連想される方が多いと思います。しかし全国有数のツバキの生産地でもあり、ツバキの古木・名木が残っていることをご存知の方は少ないと思います。シーボルトがヨーロッパに持ち帰り「ドンケアリー」の名前で世界中に広まったといわれています。

ところで「久留米支部」につきましては、昨年支部長さんの訃報もあり平成二十年を最後に今日まで活動休止の状態でありました。大変人望の厚い方であり後輩として残念でなりません。謹んでお悔やみ申し上げます。

今回、後任の支部長として事務局の高江様から打診を受けました。八女高校の同窓生としての絆を大切に、発展を願うものとして、我が儘も言えず観念した次第です。

私は現在、久留米市の自治会長・地元荒木における農業工場跡地問題のダイオキシン対策委員長として取り組んでおります。

支部長としてどれだけお役にたてるのか、わかりませんが出来る限り尽力していきたいと思っております。

久留米支部は八女中・八女高同窓生一八〇〇人を超える大所帯であります。この同窓生仲間と共に連絡を取りながら同窓会の一翼を担えたらと思っております。

不亦楽乎～亦た楽しからずや～

「感謝」

平成二十六年大同窓会実行委員会

実行委員長 野崎 啓二(高37回)

本日は平成二十六年大同窓会懇親会「亦た楽しからずや」に多数のご参加をいただき、誠にありがとうございます。およそ二年前から準備を進めてまいりましたが、当初は運営できるだけの人員を動員できるかどうかという不安からのスタートでした。が、なんとか昨年の前世話の役目を果たすことができ、自信、結束力ともに強固なものにして本日を迎えることができました。

下川会長をはじめ各支部の同窓生の皆様、温かい励ましのお言葉をいただき、またチケット販売にご協力いただきありがとうございます。

池田、東野両先輩をはじめとする三十五、三十六回生の皆様、何も分らなかった私たちに温かく、そして時には厳しくご指導いただきありがとうございます。

内田校長、大坪前校長をはじめとする学校関係者の皆様、無理なお願ひにも寛容に対応していただきありがとうございます。

これまで携わっていた、たくさんの方の同窓生の皆様のおかげで私たちが三十七回生も伝統ある歴史を継承することができました。お一人お一人への感謝の気持ちを、この大同窓会の中でお伝えできればと思っています。

そして吉田委員長、三宅事務局長をはじめとする三十八回生の皆様、緊いであってありがとうございます。同窓生の皆様、三十八回生にも我々同様、またそれ以上の激励、ご指導ご協力をお願いいたします。来年度の大同窓会が盛会に執り行われ、そしてこの伝統が永く継承されていくことを、我々三十七回生一同心より祈念いたします。

「大同窓会への思い」

平成二十六年大同窓会実行委員会

副実行委員長(企画担当)

清田 博(高37回)

「朋有り、遠方より来たる。亦た楽しからずや。」このテーマを掲げ、二年前からゴールとして目指してきた大同窓会の日をようやく迎えることができました。本日は多くの同窓生の方々に来ていただき、心から御礼申し上げます。

早いもので高校卒業から三十年が経ちました。私ごとで恐縮ですが、勉強があまり得意ではなかった私にとつて、正直八女高校での三年間は良いことばかりではありませんでした。しかし、学校と部活は大好きでした。みんなと一緒に居ることは今思えば最高に幸せなかけがえのない時間であったと思います。おかげさまで小学校時代からの無遅刻、無欠席を高校まで通すことができました。これは今でも私のささやかな自慢です。

そんな楽しく平和な高校時代が送れたのも、実は、多くの同窓生の方の温かい応援があったからこそ。このことを知ったのは、この大同窓会のお世話をするようになってからのことでした。大同窓会や支部会に参加するたびに、大先輩方の母校に対する思い、後輩に対する深い愛情を知り、感激したものです。

本日は、言うなれば、ずっと見守ってくださっていた同窓生の方々への「恩返し」の日でもあります。すべての方に楽しんでいただけて、また来年も来たいと思っただけのような「おもてなし」がしたい。その一心で企画しました。どうぞ、大いに笑い、大いに語らい、心ゆくまでお楽しみください。

最後になりますが、今回の大同窓会本世話をするにあたり、惜しみないご支援をくださった先輩方、先生方、後輩のみなさんに深く感謝いたします。本当にありがとうございます。これからこの

大同窓会が未来永劫続いていくことを祈念いたします。三十八回生をはじめとする後輩のみなさん、がんばってください。期待しています。

第三十八回 泉が丘ゴルフコンペ

平成二十六年大同窓会実行委員会

事業委員長 中島 一仁(高37回)

諸先輩の方々より脈々と受け継がれる「泉が丘ゴルフコンペ」。一年半前この事業委員長という大役を任された時には身の引き締まる思いになった事がつい先日事のようです。そしていかにして成功に導くかを考えた時に三十七回生は仲間を信じ個々の持ちたる「気持・発想・体力」を倍出し合おう、そうすれば結果も二倍になって返ってくるはずと一致団結した事を今でもおぼえています。大会当日は天候が危ぶまれる中、参加者皆様のおかげをもちまして、早朝六時前より続々と足を運んでいただき、馬場会長からも過去最高とお言葉を頂ける二五八名のゴルフ参加者を得る事が出来ました。この場をお借りしまして心より感謝の意を表します。

また今回、私個人も大変勉強させていただきました。この同窓生による泉が丘ゴルフコンペのお世話というものはコンペ成功の為だけにあらずこれはあくまでプロローグ。ここからより一層我々三十七回生の全身全霊を二つにして「八女中・八女高大同窓会」を大成功へ導いて参ります。友と再会し、友と話す事によって、友より知恵・勇気を頂くそしてそれを今後の人生にいかしていく。それが二十六年度のテーマ「不亦楽乎」ということを。



感謝の思い

平成二十五年大同窓会実行委員会

実行委員長 東野 誠一郎(高36回)

昨年の大同窓会から一年、あつという間に過ぎた一年でした。考えてみれば、三年前の夏、学年同窓会の際に代表幹事を引き受けて引き続き前世話のための準備に携わったのが大同窓会活動の始まりでした。私は、それまで、恥ずかしながら、大同窓会に参加したことがありませんでした。

初めて参加したときに、自分たちの学年同窓会とは大きく違う、参加人数の多さと迫力に圧倒されたことを思い出します。

前世話から、昨年の大同窓会まで、事務局、そして各委員会の一人ひとりが一生懸命に頑張ってくれて、それに加え先輩方の度重なる親身なアドバイスもあって、おかげさまで無事に終えることができ、参加された皆様にも喜んでいただけたのではと思っています。

私自身、大同窓会に携わっていたこの二年の間に転職を決断したりと、しかしそのような決断ができたのも、各支部総会に参加して、先輩方に心温まる言葉をいただいたことや、三十八回生の仲間の励ましの言葉そして、かわいいうち後輩たちとふれあえた事、そのひとつひとつが私を支えてくれました。改めて私を支えてくれた皆様に感謝します。

八女高校のこの絆の深さは大同窓会の前世話・本世話を経験して初めてわかります。この伝統ある母校、八女高校の大同窓会を後輩に繋げていくために私たち三十八回生も今後できる限りの協力をしていきます。

後輩の皆さん。どうぞよろしくお祈りします。八女高校、それは私たちの原点です。



27年度のテーマは「軌跡～そして未来へ」

旧友との再会が嬉しくて多感な青春時代がよみがえり、「気持ちだけは高校生」で、一致団結して準備を進めています。(おしゃべりとお酒で、スローペースですが...) まさに八女高校が、私たちの原点であり、改めて友情・縁を再認識しています。毎回、同窓会館での話し合いの時に見る八女高校の校舎、グラウンド、教室がなつかしく、在校生のフレッシュな姿、清々しい挨拶にふれ、幸せを実感する私たち三十八回生一同です。

平成二十七年大同窓会実行委員会
実行委員長 吉田 世津子(高38回)
平成二十七年の八女中・八女高大同窓会懇親会は、私たち高校三十八回生がお世話をさせて頂きます。どうぞよろしくお願い申し上げます。私たちは、来年の大同窓会のテーマを「軌跡～そして未来へ」に決定しました。

「栄光の軌跡」に 感謝する大同窓会に



八女高の先輩方の歩んでこられた人生、偉大な功績に、身も心も引き締まる思いです。世代を超えて全国から集結されるこの大同窓会こそ、明日への希望や力になる、今期三十七回生先輩方の掲げられた「不亦楽乎」です。

平成二十七年大同窓会実行委員会
事務局 三宅 雅幸(高38回)
私たち三十八回生は、高校卒業後、五年毎に、学年同窓会を開催してきました。この度、いよいよ2015大同窓会の本世話を担当させていただきます。ことになりました。三十八回生一同より一層親交を深め、各々が仕事、家庭、社会においての役割、様々な状況の中でみんなで協力し合って活動しているところです。毎年行われている五月末の大同窓会、

大同窓会(未来)に向かって

私たちの愛する母校「栄光の百七年の軌跡」八女高校が大好きです。同窓生が誇ります。先輩方が築いてこられた精神・心を胸に刻み、しっかりと大切に受け継いでいきたいと思っています。そして私たちもこれを機に大きな一歩を踏み出し、熱いパワーで輝かしい未来に向かって前進あるのみです。どうか、平成二十七年の大同窓会で、一人でも多くの卒業生の皆様にお会いできるようお願い、私たち三十八回生一同、「心をこめたおもてなし」笑顔でお待ちしております。

そして各支部会。筑後・八女・みやま・広川・立花・大牟田・大木・福岡・関東・関西・久留米と、全国に八女中・八女高大同窓生が集う場があります。支部会を設立され、毎年開催していただいている大先輩方の熱意に感謝し、心から敬意を表します。先輩方は、どの支部会に行っても私たち後輩を、こころよく温かく迎えて下さいます。その場に出席することは、自分が八女中・八女高の卒業生ということであらためて実感させられ、そのことを誇りに思います。先輩方のお話を通して、「一人」と人「心と心」の繋がる同窓の大切さを学び、大同窓会を引き継いでこられたことに尊敬の念を持ちます。私たちもまた、しっかりと後輩のみなさんに引き継いでいかなければという思いで来年へ向かっています。



高38回生一同お待ちしております。

泉ヶ丘ゴルフコンペ
平成27年4月29日(祝)

2015年度八女中・八女高大同窓会
平成27年5月31日(日) 八女高等学校体育館

総会 午前10:00～
懇親会 午前11:00～

同級生に感謝

平成二十五年大同窓会実行委員会
会場委員長 田中 理子(高36回)
早いもので、一年が経ちました。大同窓会懇親会の運営にあたっては、会場委員で毎月会議を開いて、準備を進めていったことが思い出されます。本番は一回きりで、誰も経験していないわけですから、歴代の先輩方から引き継いだ資料だけが頼りでした。料理、備品、テーブル配置、段取りなど、会場委員全員でひとつひとつを確認していきましたが、きちんと運営できるか当日までみんな不安だったと思います。また、会場の設営と懇親会の運営には多くの人手が必要だったので、どれだけの同級生が集まってくれるかも心配でした。しかし、二日ともたくさんの同級生が集まってくれました。このためだけに、遠くからわざわざ帰ってきてくれた同級生もたくさんいました。そして、みんなが協力し、サポートしてくれました。今でも、前日と当日の光景を思い出すと、本当に誇らしい気持ちになります。懇親会に来ていただいた同級生のみなさまを、私たちがなにより一杯おもてなしをしたつもりでしたが、行き届かないところが多々あったであろうことはご容赦いただきたくと思います。卒業三十年目に多くの同級生と共同作業ができたことに感謝をし、今年度運営を担う三十七回生に心からエールを贈ります。



八女高校大運動会

平成26年6月7日(土)

テーマ

「颯爽」～大地を鳴らす、勇駆の響～



平成26年度入試等合格者

☆国立大学…九州大学7名合格！

(医学部・医学科含む)

☆私立大学…早稲田2名 慶応義塾1名

明治3名、立教2名、関関同立24名合格！

中央1名、法政1名

(関大、関学大、同志社、立命館)

☆防衛大学校…今年も筑後地区最多 13名の合格！

平成25年度 部活動報告

◎剣道部

全国高等学校総合体育大会福岡県大会

男子個人 優勝 楠 充功 (3年)

第60回全国高等学校剣道大会出場 (8月 於 佐賀県)

◎文芸部

福岡県高文祭散文部門最優秀賞

最優秀賞 城 拓樹 (2年)

平成25年度全国高校総合文化祭出場 (8月 於 長崎県)

◎自然科学部生物班

全国中高生水フォーラム

～未来につなぐ水のリレー 2013 (7月 於 東京都)

平成25年度48回全国野生生物保護実績発表大会 (於 東京都環境省)
(1年生12名、2年生6名、3年生4名)

◎第10回日本の次世代リーダー塾

福岡県代表 池田 理絨 (2年)

鴻江 俊之 (2年)

◎弁論部

福澤諭吉記念全国高等学校弁論大会 (於 中津市)

優秀賞 溝上 賢史郎 (1年)

◎剣道部

第30回全九州高等学校選抜剣道大会 (於 長崎県)

女子個人 中村 沙耶 (2年)

◎弁論部

第63回九州高等学校弁論大会 (於 沖縄県)

優良賞 溝上 賢史郎 (1年)

◎水泳部

全九州高等学校選手権新人水泳競技大会 (於 長崎県)

50mバタフライ・100m自由形

吉岡 未希 (2年)

50m平泳ぎ

今村 優希 (2年)

50m背泳ぎ・200m個人メドレー

壇 亜香里 (1年)

陸上競技部、男女バスケットボール部、サッカー部、剣道部、

空手道部、卓球部、ソフトテニス部、水泳部、文芸部、吹奏楽部

美術部、書道部、放送部、自然科学部生物班

全国大会出場

九州大会出場

県大会出場

平成26年度入試等合格者一覧

国公立大学	東海大学	1	日赤九州看護大学	1
埼玉大学	創価大学	1	久留米工業大学	1
千葉大学	東京農業大学	3	帝京大学	2
静岡大学	成蹊大学	1	聖マリア学院大学	6
広島大学	関東学院大学	1	純真学園大学	2
山口大学	昭和女子大学	1	活水女子大学	2
福岡教育大学	神奈川大学	2	長崎国際大学	2
九州大学	ヤマザキ学園大学	1	西九州大学	6
九州工業大学	文教大学	1	崇城大学	8
佐賀大学	南山大学	1	長崎純心大学	1
長崎大学	金沢星陵大学	1	長崎外国語大学	1
熊本大学	北海道情報大学	1	九州看護福祉大学	3
宮崎大学	愛知大学	3	熊本保健科学大学	3
鹿児島大学	東海学園大学	1	別府大学	1
琉球大学	八戸学院大学	1	立命館アジア大学	1
都留文科大学	同志社大学	4	九州保健福祉大学	2
県立広島大学	立命館大学	19	短期大学	
山口県立大学	愛知みずほ大学	1	東京農業大学短大部	1
下関市立大学	関西大学	1	中村学園大学短期大学部	2
北九州市立大学	関西学院大学	1	他4校	7
福岡女子大学	龍谷大学	4	専門学校	
福岡県立大学	近畿大学	3	(独行)九州医療センター	1
長崎県立大学	川崎医療福祉大学	1	附属福岡看護学校	
宮崎公立大学	倉敷芸術科学大学	2	他21校	32
準大学	岡山理科大学	2	公務員	
国立看護大学校	岡山学院大学	1	国家一般	1
防衛大学校	広島工業大学	5	筑後市職	1
私立大学	西南学院大学	45	八女市職	1
早稲田大学	福岡大学	81	福岡県警	3
慶応義塾大学	中村学園大学	21	熊本県警	2
中央大学	久留米大学	42	海上保安学校	2
明治大学	筑紫女学園大学	9	久留米広域消防	1
立教大学	国際医療福祉大学	3	八女地区消防	1
駒澤大学	福岡女学院大学	5	自衛隊一般曹候補生	4
東京理科大学	西南学院大学	3	就職	
法政大学	福岡女学院看護大学	2	(財)日本モーターボート	1
東洋大学	福岡工業大学	12	競走会 やまと学校	
専修大学	第一薬科大学	1		
国学院大学	九州共立大学	4		
日本大学	九州栄養福祉大学	1		

同窓会ホームページを開設！ 支部や学年会の開催行事に強力な伝達手段

かねてより要望が寄せられていた同窓会のホームページを本年一月に開設しました。これまで母校のホームページの一部を間借りしていましたが、スペース等の制約もない単独ホームページとなります。

メニューは、大同窓会のご案内、全国支部情報、同期会(学年会)、ミュージアム紹介、トピックス、お知らせ(事務局)、運営ポリシーの7区分から構成されています。支部の行事案内、学年会やクラス同窓会の催しものなど、会員同士の連絡には掲示板として利用でき、強力な伝達手段となります。サイトのURLです。

<http://www7.ocn.ne.jp/~yamechuu/index.html>

そのほか、「八女中・八女高同窓会」での検索、また母校のホームページのリンクから入る方法もあります。「日々更新」をモットーに、新しい情報をお届けすることに努めてまいりますので、会員の皆様のご利用とともに情報の提供(投稿)をお待ちしています。



編集後記

今回、大正生まれのお二人の大先輩の手記を掲載できたことは、大変意義のあることとす。お二人に共通する強い「志」と卓越した行動力・実践力に感化される後輩も少なくないでしょう。時を経て、昨年卒業された「はね犬バンジー」のお二人も、大いなる志を抱いて奮闘されています。時代の変遷を経て、八女中・八女高で培われた精神が脈々と受け継がれ、各々の舞台で「納得いく人生」を目指しておられる姿に敬服します。

西木戸先輩・寺山先輩はじめ多くの方のご協力で本号を発刊することができました。ありがとうございます。

(馬場政英 高27回)